

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年5月28日 NO.16

モンタ博士「やあ、二人とも元気かな。このふくろ  
の中にいいものが入っているよ。  
なーんだ。あててごらん。」

オー君 「うえー。すげえにおいだ。」

花ちゃん 「うーん。どこかでこのにおいをかいだ  
ことがあるわ。あっ！わかった。  
もしかして、ドクダミ？」



モンタ博士「ピンポン。そのとおり。さすがは、  
花ちゃん。植物博士だね。ところで、  
このドクダミの花びらは何枚かな？」

オー君 「そんなの数えればいいじゃん。1、2、  
3、4の4枚です。かんたんじゃん。」



花ちゃん 「私もそう思うけど、ちがうのかな。あっ！そうだ。むしめがねという私のア  
イテムを使ってくわしく見ちゃうわね。なんか4枚の花の上にもまたこまかい  
黄色いものが見えるけど・・・なんだろうな。」

モンタ博士「よく気がついたね。ドクダミの花はとってもかわっていてね。4枚の花びら  
のように見えるのは、本当は花びらでなくて、植物学的にいうと、総苞（そ  
うほう）と言って花全体をつつむようなものさ。ちょっとむずかしくなっ  
てごめんね。本当の花はね、上にイネの穂（ほ）のようにつきだしているところ  
さ。たくさんの花が集まっているのがわかるかな。よく見てごらん。」

花ちゃん 「黄色く見えるところですね。おしべみたいのが3つと、まん中にあるのはめ  
しべみたいですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。ドクダミというのは、花びらもがくもないのさ。花として  
は、ずいぶんとかわったやつなのさ。」

オー君 「二人ともむずかしいややこしい  
話ばかりしないでおくれよ。  
ところで、ドクダミで思い出したけどさ、おいらのおばあちゃんがドクダミの葉っぱをとっては、お茶にしてのんでいたよ。」

花ちゃん 「あのくさい葉っぱをお茶にして飲むの。おいしくないんじゃない。」

オー君 「ところがそうじゃないんだ。ひかげでよくかんそうさせると、においもなくなるし、ドクダミ茶っていうのも売られているらしいよ。」



ドクダミ

モンタ博士 「ドクダミは、むかしから十薬（じゅうやく）といわれていて、たくさんのききめがあるそうだよ。むかしの人は、葉っぱを火であぶっておできやキズをなおしたそうだよ。」

オー君 「なるほど、むかしの人はすごいね。道ばたにある草で病気（びょうき）をなおしちゃうんだから。はじめにドクダミの葉をつけてキズをなおした人はえらい人だな。」

モンタ博士 「ほんとうだね。そもそも植物の研究（けんきゅう）というのはね、草や木をどうやって薬（くすり）にして、体を楽にするかというところから始まったんだよ。」

オー君 「だから、薬という漢字は、草かんむりに楽（らく）と書くんだね。」

### ドクダミさんのつばやき

どうも私には、いやな草というイメージがあるみたいで私は困っています。鼻をつくような悪臭、それに生えているところが、これまたあまり気に入られないみたいね。陰気な墓場、日の当たらぬ湿地、しめっぽい路地裏とか。おまけに私の脇をへびでも横切るような感じでもするのかしらね。

でも、私はそんなネクラではないんだけど。雨上がりの緑の草地に純白で清楚にも見えると言ってくれる人もいるんだから。それに、すっきりと浮かび上がった十字形だってステキでしょう。じっと立ち止まって見てちょうだい。ハート形の葉っぱだって裏にはちょっと赤みがあって、けっこうおしゃれなんですからね。それから、わたしは双子葉類の仲間だけど、普通、双子葉類は、おしべの数が4つか5つだけど、ドクダミは単子葉類のようにおしべが3つ、めしべの先も3つにわかれているのが変わっているところよ。それから私の秘密はまだあるの。なんと、私は花粉に関係なく、受粉しなくても種子が勝手にできてしまうのよ。セイヨウタンポポと同じで単為生殖と植物学的には言うそうよ。どう！私だって結構奥が深いでしょう。

最後に… **ドクダミや真昼の間に白十字**（川端芽舎1897-1941）